謄写料請求書＜刑事(被疑者事件を除く)・少年共通＞

書式4-B③
H29.10.30版

弁護士　　(登録番号　　)　　提出日　　年　　月　　日

事件番号:　　年(　　)第　　号　　被告人名:

謄写料を次のとおり請求します。(要疎明資料添付:謄写枚数及び単価が記載された領収証の写しなど)

謄写(デジカメ以外)	白黒		枚	カラー		枚	※2色カラーはカラーでの請求となります。
デジカメ謄写	白黒		枚	カラー		枚	※実際にプリントアウトした枚数
法テラス使用欄	白黒合計		枚	カラー合計		枚	※カラー1枚は白黒2枚として算定

①　下記②以外の事件について　※総謄写枚数が200枚を超える場合のみ、ご記入ください。

(ただし、第一審においては第1回公判(審判)前、上訴審において趣意書等の提出前に解任(取下)等された場合は全枚数の請求)

※カラー1枚は白黒2枚として算定します。 例)白黒190枚、カラー6枚(×2枚扱い) ＝ 合計202枚として算定

＜法テラス記入欄＞

【通常事件】

単価 ＿＿＿円 × ＿＿＿枚
単価 ＿＿＿円 × ＿＿＿枚
単価 ＿＿＿円 × ＿＿＿枚
単価 ＿＿＿円 × ＿＿＿枚

控除後
単価 ＿＿＿円 × ＿＿＿枚＝＿＿＿円
単価 ＿＿＿円 × ＿＿＿枚＝＿＿＿円
単価 ＿＿＿円 × ＿＿＿枚＝＿＿＿円
単価 ＿＿＿円 × ＿＿＿枚＝＿＿＿円
□ 実費合計 ＿＿＿枚 ＿＿＿円

□ 定額計算(×@20円) ＿＿＿円

□ 上限計算(×@40円) ＿＿＿円

②　下記に該当するもの(全枚数の請求)がある場合はチェックしてください。
チェックがない場合、上記①請求として取り扱います。

□否認事件(一部否認を含む)　＊否認事件とは公訴事実を争う事件をいいます。
□法定刑に死刑の定めがある罪に係る事件(刑事第一審・少年事件)
□原判決の宣告刑が死刑又は無期の懲役の事件(刑事控訴審)
□原審の判決の内容が死刑又は無期の懲役の事件(刑事上告審)
□公判前整理手続又は期日間整理手続に付された事件(刑事事件)
□故意の犯罪行為により被害者を死亡させた罪に係る事件(少年事件)
□記録丁数が2000丁を超える事件
(丁数については　□裁判所に確認した。／□自身で枚数を確認した。)

※デジカメ等での謄写について

上記デジカメ謄写(デジカメ等で謄写し、プリントアウトしたもの)があり、実費単価の請求をされる場合は、単価がわかる疎明資料(プリンターのリース契約書の写し等)も添付ください。

※なお、単価の疎明資料の提出がない場合は原則として定額算定(上記①での請求)となります。

＜法テラス記入欄＞

【否認事件】

単価 ＿＿＿円 × ＿＿＿枚＝＿＿＿円
単価 ＿＿＿円 × ＿＿＿枚＝＿＿＿円
単価 ＿＿＿円 × ＿＿＿枚＝＿＿＿円
単価 ＿＿＿円 × ＿＿＿枚＝＿＿＿円

□ 実費合計 ＿＿＿円

白黒 40円×＿＿＿枚＝＿＿＿円
カラー 100円×＿＿＿枚＝＿＿＿円

□ 上限計算 ＿＿＿円

③　上記②事件において、同一事件に複数の国選弁護人(付添人)が選任され、謄写記録の複製を作成した。

(注)検察官から無償で交付された事件記録をコピーした場合は、複写ではなく謄写での請求となります。
(算定上は上記のデジカメ謄写枚数欄へ記入)

複写枚数:　白黒　　枚　カラー　　枚**(※カラーコピーした枚数)**　＊1枚10円(カラーは2枚換算)で算定

複数選任 :＿＿＿＿弁護士分(＿＿＿弁護士会所属) 、＿＿＿＿弁護士分(＿＿＿弁護士会所属)

④　紙以外の記録媒体を謄写した。(要疎明資料:単価及び数量が記載された領収証等) (例)CD、DVD、BDなど

実費額 ＿＿＿＿円 (記録媒体＿＿＿ 単価＿＿＿円 数量＿＿＿枚)
実費額 ＿＿＿＿円 (記録媒体＿＿＿ 単価＿＿＿円 数量＿＿＿枚)